

かたつむり通信 28号



2021年の振り返りと2022年の抱負

代表理事 谷山啓太



疫病退散!
収束祈願!

コロナ禍の生活で2年が経とうとしています。子どもたちの生活もさまざまな面で制約を受け、今までになかったストレスにさらされています。そのような状況の2021年、私たちは子どもたちの声に耳を傾け、寄り添う活動を続けてきました。

電話ではのべ745名の受け手・支え手が参加して年間114日実施しました。子どもと会話ができただけの件数は1,400件を超えて2020年に比べて5%の増加です。オンラインチャットではのべ180名の受け手・支え手が参加して年間41日実施、子どもとつながれたのは367件、2020年より6割以上の増加となりました。

昨今、文科省や都の教育委員会では子どもたちの「SOSの出し方」に関する教育を重要視しています。私たちは以前からチャイルドラインのカードを毎年子どもたちに配り、いつでもつながってほしいと伝えてきました。昨年は品川区の子どもたちに学校から配られるGIGAスクール端末に「SOS」としてチャイルドラインへのリンクを登録してもらうこともできました。とはいえ、カードを渡されただけ、iPadにリンクがあるからと言って電話やオンラインチャットでつながってくれる子どもはほんの一握りです。そこで私たちは学校に出向いて子どもたちに

直接語りかける「出前授業」に力を入れています。「誰もが大切にされる権利を持っていること」を伝え、「チャイルドラインの実際のやり取りがどんなものか」を見せて心理的なハードルを下げ、深刻な悩みを抱える前にふだんから気軽につながってもらえるようにお話をしています。昨年もいくつかの品川区内の中学校、義務教育学校、都立高校で出前授業をさせてもらうことができました。今後はこれをすべての学校に拡げていけたらいいな、と考えています。

昨年も立正大学との共催で受け手の養成研修を行うことができました。春にはたくさんのメンバーが新たに活動に参加する予定です。この数年、受け手養成研修の受講を希望する方がとても増えていて、子どもに寄り添いたいと願う大人・若者の多さに驚いています。昨年は団体の中で新たな支え手やチャットの受け手の養成も行い、体制を充実させることができました。

2022年はしながわチャイルドラインの活動20年目にあたります。これまで地道に続けてきた活動を基礎に、すべての子どもたちが大切にされる社会の実現を願う地域の皆さまと、手を取り合って進んでいけたらと考えています。

養成研修・活動報告

◇ 仲間が22名増えました!

昨年の10月5日から12月14日まで、10回にわたり、第20期受け手・サポーター養成研修が、立正大学で行われました。

近年、募集を大きく上回る応募をいただくこの講座。こどもの役に立ちたいと考える方が増えたようでとて

もうれしいことです。しかし今回もコロナの状況を考慮して、定員を少し減らし、立正大学の学生さん以外の一般の受講者は品川区在住・在勤の方ということでの開催でした。

研修修了後には、ありがたいことに受け手として21



名、サポーターとして1名がしなチャイの活動に参加してくれることになりました!これは全受講者の88%に相当します。

養成研修では、毎年、「傾聴」を徹底的に学んでいただきます。まずは誰かが言ったことについて、自分もしそう思えなくても否定せずに聴き切ること、それが話す側に安心の場を与えること。話し手と聴き手、立場を変えながら、グループで話し合うワークを重ねていくうちに実感できていくものだと思います。

以下、研修に参加された方々の感想を一部引用させていただきます。

- *話すことは人を生き生きさせるのだと思った。
- *様々な世代の人たちと話をして自分の心がオープンになったのを感じた。
- *他の人からの新たな視点からの考えを知って学びが深まった。
- *人と話すことがリフレッシュや自分の思考の整理につながると感じた。

コロナ禍で他者との繋がりが希薄になりがちな今、話すことや聴くことの喜びを一層に感じた方が多かったのではないのでしょうか。

また全10回のうち2回はZOOMで会員以外の方も参加可能な公開講座としての開催でした。

10/19は、認定NPO法人フリースペースたまりば理事長の西野博之さんにお話をいただきました。2000年に川崎市で子どもの権利に関する条例が採択されました。その条例策定にも尽力された方です。『まず、おとなが幸せにしてください。おとなが幸せじゃないのに、子どもだけ幸せにはなれません…』条例策定に参加した子どもたちからのメッセージが紹介され、これは参加者全員の心に深く残ったようです。

11/16は、児童虐待をテーマにルポライターとして活動されている杉山春さんと、児童養護施設・子供の家施設長の早川悟司さんにご登場いただきました。虐待の背景には、親の育った環境だったり、相談できる人や居場所がないことが関係していることが多い。その親たちには一方向の『支援』ではなく、子育てを支え合ったり、共有する社会が必要といったお話でした。

「子育ては自己責任」という風潮になってしまっていること、考えさせられました。



◇ 都立新宿山吹高校で出前授業

2021年12月16日に都立新宿山吹高校へ出前授業に伺いました。チャイルドラインの説明、電話のロールプレイ、進路やボランティアとの関わりについての講演に、60名余りの生徒・教職員の皆さんが耳を傾



けてくださいました。

初の試みとして、オンラインを用いてアンケートの回答や講演に対する質問をリアルタイムで集約し、その場で答える形式を取り入れ、たくさんの生徒さんからリアクションをいただきました。また、バルーンアートもご披露しました。

このように活動内容を伝えることは、チャイルドライン相談へのハードルを下げるだけでなく、ボランティアへの関心を高めることにも繋がっていくのではないかと期待しています。

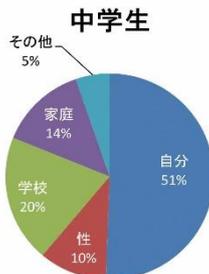
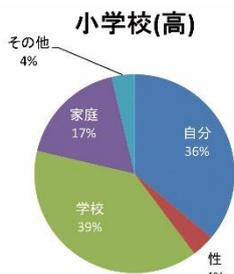
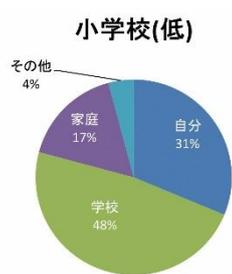
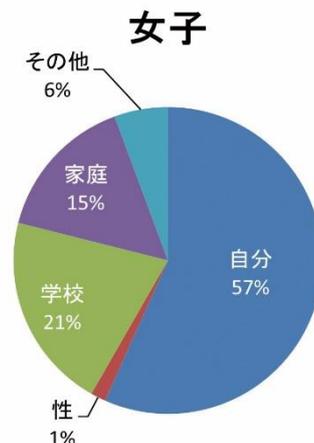
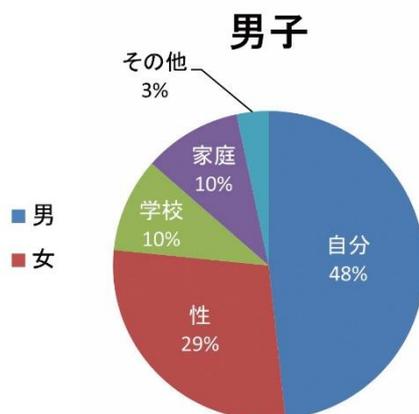
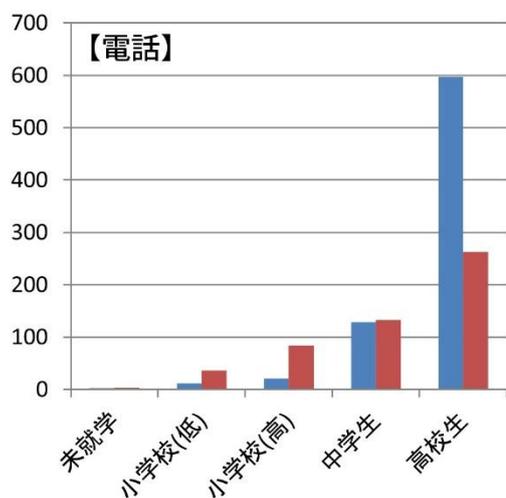
前年度に続き、機会をいただきました関係者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

しながわチャイルドライン電話・チャット概要

【集計期間:2021/1/1~2021/12/31】

◇ 電話

総受信数 5,047 件(前年度 4,689 件) (全国 147,123 件)
 会話成立 1,471 件(前年度 1,363 件) (全国 42,088 件)

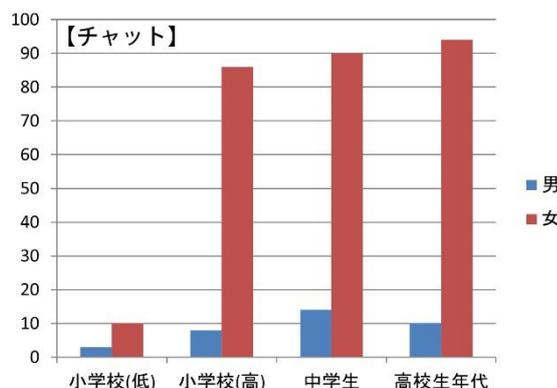


- ・受信件数、会話成立件数ともに微増しました。
- ・属性別では、高校生年代の男子からの電話がもっとも多くなっています。
- ・電話の主訴は男女ともに「自分」に関するものがトップで、男子で「性」に関するものが多くなっているのが特徴的です。
- ・電話の主訴で男女ともに「家庭」に関するものが前年より増えました。
- ・小学校低学年では「学校」に関する電話が多く、年齢が上がるにつれて「自分」に関するものが多くなっています。
- ・死にたい気持ちなどの深刻な主訴の電話がある一方で、「学校でカードをもらったからかけてみた」「今日、こんなことがあった」といった電話もかかってくる。

◇ オンラインチャット

総受信数 384 件(前年度 246 件) (全国 5,827 件)
 会話成立 367 件(前年度 223 件) (全国 4,832 件)

- ・受信件数、会話成立件数ともに大幅に増加しました。
- ・属性別では、ほとんどが女子から、電話に比べて低年齢で、小学校高学年、中学生、高校生女子からの相談が多くなっています。



- ・チャットの主訴は男女ともに「自分」に関するものがトップで、「性」に関する相談はあまりありません。
- ・年代が上がるにつれて「学校」に関する主訴が減り、「自分」に関するものが多くなっています。
- ・希死念慮が感じられる相談が、電話の 2.5% に比べてチャットでは 10.4% と多くなっていることが特徴です。

◇ 『子どものいのちを守る』講演会

文科省の調査では、2020年度の自殺した児童生徒数は過去最多で400人を超え、また不登校も過去10年で最多となりました。文科省は「極めて憂慮すべき結果」として、コロナ禍の影響も示唆しています。

このような中で子どもの「死にたい」気持ちにどう寄り添い、いのちを守っていくのか。日本各地で自殺予防の実践をなさっている高橋聡美さんのお話を伺い、今の子どもの自殺の現状を詳しく知り、子どもへの対応や具体的にどういのちを守るか考えていきます。

子ども若者応援セミナー2022 <会場&オンライン>

2月26日(土)実施

子どものいのちを守る

子どもの自殺の現状と自殺予防
～私たちにできること～



講師 高橋聡美さん

身近な子どもが「死にたい」と言ったら、どう答えますか？
日本では子どもの自殺が過去最高になりました。国内各地で自殺予防の実践をされている高橋さんのお話から、その現状を詳しく知り、子どものいのちを守るには具体的にどうしたらよいかを考えていきます。

医学博士 中央大学人文科学研究所客員研究員
(一社)高橋聡美研究室代表理事
BPO(放送倫理・番組向上機構)委員
前防衛医科大学校精神看護学教授



お申し込みはこちらから↑

しながわチャイルドライン電話・チャット実績

■ 2021年7月～12月

*電話データ

主訴	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
自分	56	52	103	57	54	48	370
性	22	30	21	19	25	28	145
学校・FS	29	15	19	10	20	18	111
家庭	18	7	19	17	13	9	83
その他	9	4	3	7	1	5	29
合計	134	108	165	110	113	108	738

*チャットデータ

主訴	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
自分	10	7	11	7	45	15	95
学校・FS	5	3	9	10	29	13	69
家庭	6	6	3	5	15	0	35
その他	1	1	6	3	8	2	21
合計	22	17	29	25	97	30	220

◇FS…フリースクール

ご支援ありがとうございます

集計期間：2021/7/1～2021/12/31

寄付金・賛助会費・助成金の総額

➤ 217,000円

個人のご支援者：13名(集計期間内)

ご支援いただいた団体の皆さま(集計期間内)

東京Ⅲソントクラブ 株式会社東京西武堂
ミシュカの森 たつのこどもクリニック (敬称略)

しなチャイの運営は正会員の会費、賛助会員さまの会費、寄付金、助成金によって成り立っています。

【賛助会員】年会費「1口2,000円」から何口でも
銀行名：ゆうちょ銀行
口座名義人：トクヒ)シナガワチャイルドライン
記号：00160-5 / 番号：664278
※ゆうちょ銀行以外からお振込みいただく場合
支店名：〇一九(ゼロイチキュウ)
預金種別：当座預金 / 口座番号：0664278

会費、ご寄付の用途は、子どもたちに配布するカード作成費(1枚0.7円)、公開講座の開催費などです。

発行：特定非営利活動法人 しながわチャイルドライン

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-23-24-203

Tel. / Fax. 03-5462-2868 <https://www.sinagawachildline.org/>

発行月：2022年1月

ホームページ

Facebook

